

氏名：平野 稔也(青年海外協力隊)

滞在国：タンザニア

職種：理学療法士

タイトル：ザンジバル日記(Habari za Zanzibar)14

突然のアクシデント…

生活に慣れてきた頃、アクシデントは思いもよらない形で訪れるものですね。

ずっと腰痛を抱えていたのですが…ある日から症状が悪くなってしまいました。今まで、なんとか痛みの調整を図っていたのですが、とうとう日本で療養することになってしまい、ずっと療養していました。

ですが、なんと幸運にもすぐにザンジバルに戻ることができました。

きっとこんな大きいケーキをお腹いっぱい食べれて、元気になったのでしょうか！！
(入院中、差し入れていただきました)



お見送り

ちょうど、私が療養一時帰国からタンザニア戻る頃日本へ帰国する隊員とお会いすることができたのでお見送りしてきました。この時期になると近い時期にタンザニアにきた隊員が多いため思入れは強く感じます。

先に帰ってしまうのは寂しいですが、また日本でお会いできることを楽しみに、私も活動を最後まで終えて日本に戻りたい!!そう思いが強くなる場面でした。



今後について 療養一時帰国後の活動について

想定外に身体を痛めてしまい、一時はこのまま任期短縮になってしまうのではないかと。そのようなところまで来ていましたが、奇跡的な回復と日程がうまく調整できたため無事またアフリカに戻ることができました。

今後は、活動も再開し、最後の任期までもっともっとタンザニア・ザンジバルのことを知って行きたいと考えているので、最後までレポートでお伝えできればと思っています。

と言っている間に終わってしまいそうな残り約4ヶ月。休養していた期間、今後の時間をより濃いものにしたいと強く思えて来ましたし、いないことで配属先にも「いないと困る」と思

わせることもできたかもしれません。

何より同じ期に来た仲間と同じタイミングで帰れることが何よりも楽しみです、大切な気がします。日本は医療も進んでいて、いつでもご飯が食べれて、なんでもできてしまう環境ですが、途上国には途上国ならではの「恋しさ」が秘めていることもより感じた期間でもありました。

終わりに

私の専門は理学療法、いわゆる身体の構造とリハビリなど運動に詳しいのですが、今回のように私自身が怪我してしまうと自分ではどうにもならないことがあります。

「ウガンガ ハジガンギ」

よく、タンザニア人からこう言われていました。

「いくらお医者さんでも自分が患者になってしまったら自分で治せない。だから他の先生に診てもらわなくてはならない」と。

